



豊かな自然環境の中で 真剣な瞳と 輝く笑顔があふれる学び舎

1. 基本構想策定の背景

小美玉市では、少子化の進展による将来的な児童生徒の減少等への対応や教育の質の充実を図るため、学校規模配置適正化に取り組んでおり、平成 27 年 2 月には、「小美玉市立小中学校規模配置適正化実施計画」を策定し、平成 34 年を目標年次として定め、より良い教育環境の整備を進めています。

玉里地区においては、平成 33 年度の開校を目指し、玉里小学校・玉里北小学校・玉里東小学校を統合し、玉里中学校との小中一貫校としての整備を進めています。

小中学校の位置



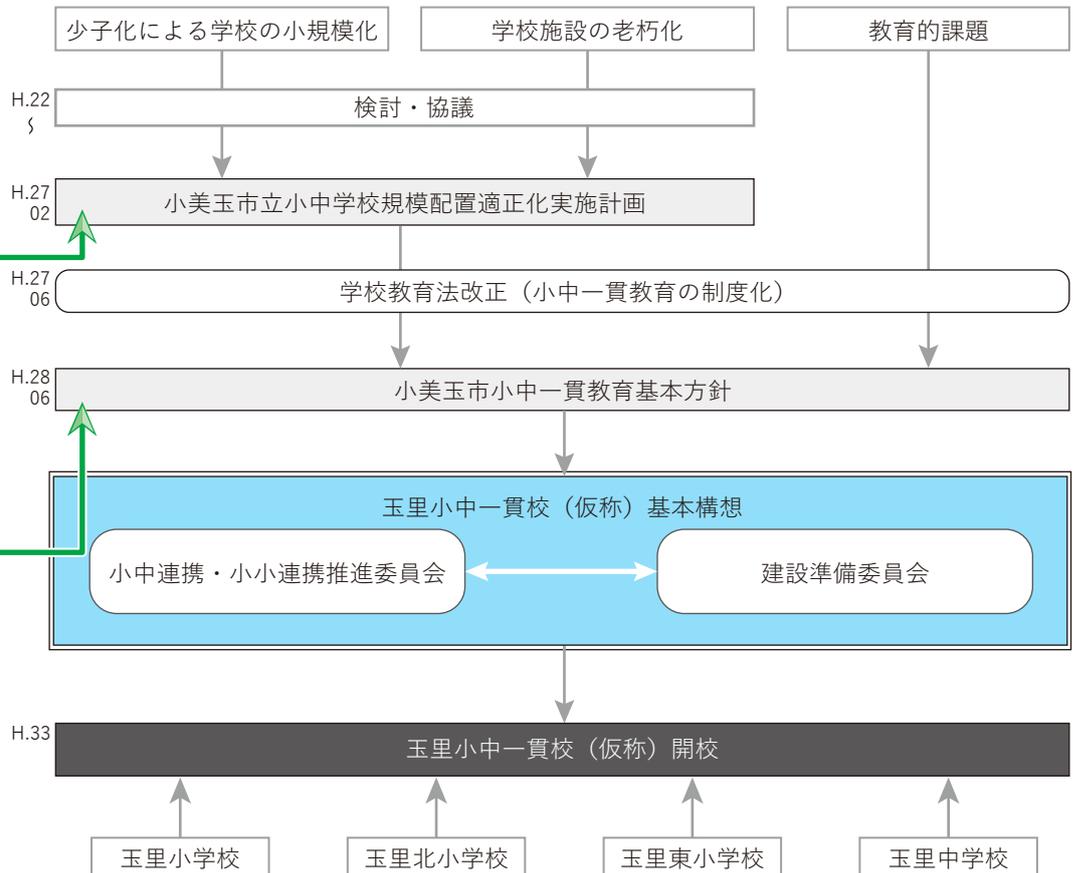
■ 小中学校の概要

学校名	校舎築年数	児童生徒数	
		H28	H33 (推計)
① 玉里小学校	38 年	196 名	189 名
② 玉里北小学校	37 年	119 名	137 名
③ 玉里東小学校	41 年	57 名	35 名
④ 玉里中学校	36 年	215 名	186 名
合計		587 名	547 名

2. 玉里地区における小中一貫教育の計画

主な内容

- 適正配置の方法
玉里小学校、玉里北小学校、玉里東小学校を統合し、玉里中学校との小中一貫校とする。
- 学校の位置
玉里小学校または玉里中学校
- 学校施設
小中一体型の校舎を新たに建設する。
- 整備予定年度
平成 27～32 年度
- 一体型小中一貫教育
義務教育学校としての開校を目指す。義務教育 9 年間を通じた教育課程を編成する。
<例>
【学年 3 区分制】
前期（4 年間）
中期（3 年間）
後期（2 年間）



3. 施設整備計画

(1) 施設整備方針

施設づくりテーマ 『豊かな自然環境の中で真剣な瞳と輝く笑顔があふれる学び舎』

1 一貫した教育活動と多様な展開を実現する学校

児童生徒にとって、この学校は心身ともに大きく成長する義務教育の9年間の学び舎となります。児童生徒の成長を育み、多様化する教育内容への対応、健やかな体づくりの推進等、長期を見通した良質な教育環境を整えます。

- | | |
|--------------------------|--------------------------------|
| ① 9年間の連続した学びに適した効果的な施設整備 | ④ 情報化・国際化に対応する教育活動を展望した施設環境の整備 |
| ② ゆとりのある教室の整備 | ⑤ 地域とともに育む学校 |
| ③ 主体的に学ぶための学習空間づくり | |

2 明るく笑顔のたえない楽しい学校

学校は児童生徒にとって、学習の場だけでなく、生活の場としての機能を有することから、児童生徒の活気があふれ、心身ともに健康な学校生活を送ることができる環境とします。

- | | |
|----------------|-------------------|
| ① 様々な交流を創出する施設 | ② 安全で人に優しく使いやすい施設 |
|----------------|-------------------|

3 玉里地区の豊かな自然環境と共存する学校

玉里地区の豊かな自然環境を活かした施設整備を行い、周辺景観と調和した学校環境を整えます。

- | | |
|------------|-----------------------------|
| ① 快適な空間づくり | ② 省エネルギーや環境教育に対応したエコスクールの整備 |
|------------|-----------------------------|

4 安全性に配慮した安心できる学校

防犯性・防災性を備え、安心して学校生活を送ることができる環境を整えるとともに、緊急時に児童生徒や地域住民等の生命を守ることでできる安全な学校とします。

- | | |
|---------------|------------|
| ① 防災に配慮した施設 | ③ 安全な施設の整備 |
| ② 目の行き届きやすい施設 | |

(2) 配置構成計画

① 施設規模

施設規模は、玉里地区の児童生徒数に応じた学校規模について検討し、児童生徒数等、長期的な展望を考慮した上で、必要な施設を合理的かつコンパクトに整備します。

計画学級数	学級数 22（普通学級 18 特別支援学級 4）
-------	--------------------------

② 配置案の基本的な考え方

- ・グラウンドや体育館での集会や体育の授業等の移動時間に配慮し、同一敷地内で移動ができるよう校舎を配置。
- ・玉里中学校の体育館は、比較的新しいため、体育の授業、式典等に利用。低学年児童の体育の授業は、無理のない時間割ができるよう、新たに小規模体育館を建築。
また、玉里小学校の体育館は、部活動等課外活動の利用。
- ・学習環境に影響が出ないよう、仮設校舎を極力使用しない計画。
- ・教育活動、運動、安全等に留意した必要十分な大きさの校舎等を配置。
- ・来客用の必要台数を備えた駐車スペースを配置。
- ・児童生徒が十分に運動できるグラウンド（200mトラック程度）を配置。
- ・安全性に配慮した登下校動線。
- ・児童生徒の利用に的確な距離となる校内動線。

③ 配置案

配置案については、仮設校舎を活用した玉里中学校校舎改修増築案、仮設校舎を利用しない現玉里中学校敷地新築案、現玉里小学校敷地新築案の比較検討を行いました。玉里地区小中一貫教育学校建設準備委員会における協議の結果、現玉里中学校敷地南側配置新築案を基本とすることで決定しました。

■ 配置の方針

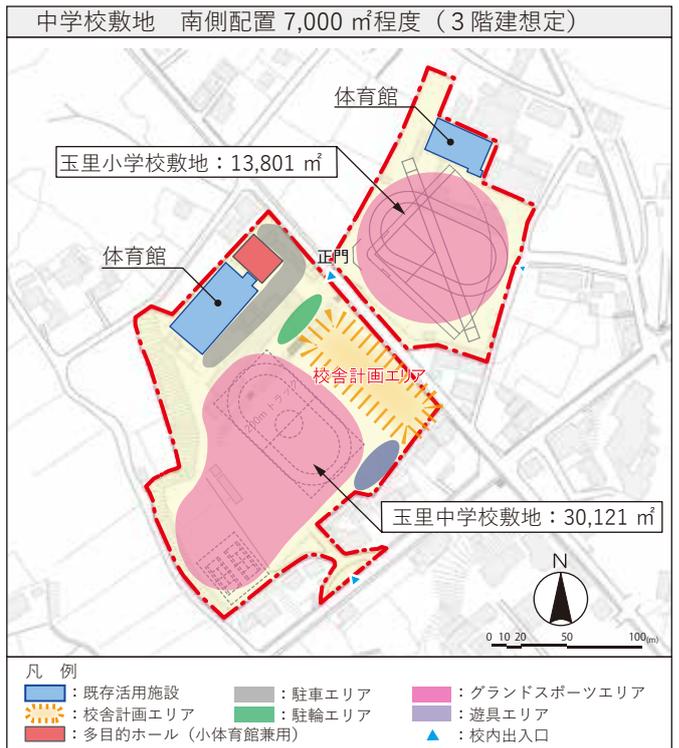
工事種別	新築
校舎建設予定敷地	現玉里中学校敷地
校舎建設位置	南側配置 (設計段階において具体的な決定を行う為、暫定位置とする。)

■ 検討内容（暫定配置案）

動線の確保	<ul style="list-style-type: none"> 既存体育館やグラウンドへの接続が良い。 旧門からのアクセスも良好である為、多面的に計画・検討を行うことが可能である。
グラウンド環境	<ul style="list-style-type: none"> 200mトラックを同一敷地内に確保できる。 既存校舎の解体後、グラウンド用地の拡張を行うことで十分な広さを確保できる。 日当たりが良好である。
施工性	仮設校舎を設置せずに、比較的不ストレスな施工が可能である。
周辺への影響	周辺住居への影響は少ない。東側道路に日照影響がある。

■ 暫定配置案

建設予定地 茨城県小美玉市上玉里 1039 番地及び 751 番地 1



(3) 平面構成計画

① 全体構成

- 校舎内は、発達段階や9年間を見通した教育活動を考慮した上で、安全性、利便性に配慮した構成計画とします。
- 主要諸室は、教科指導の連携や異学年交流の充実を図れるよう配慮した計画とします。
- 校舎内動線は、児童生徒、教職員、外部からの訪問者等が、それぞれの必要に応じ、安全かつ円滑に移動することができるような計画とします。

② エリアの構成

1. 普通教室エリア

普通教室エリアは、前期・中期・後期課程の区分に応じた構成計画とします。

2. 特別教室エリア

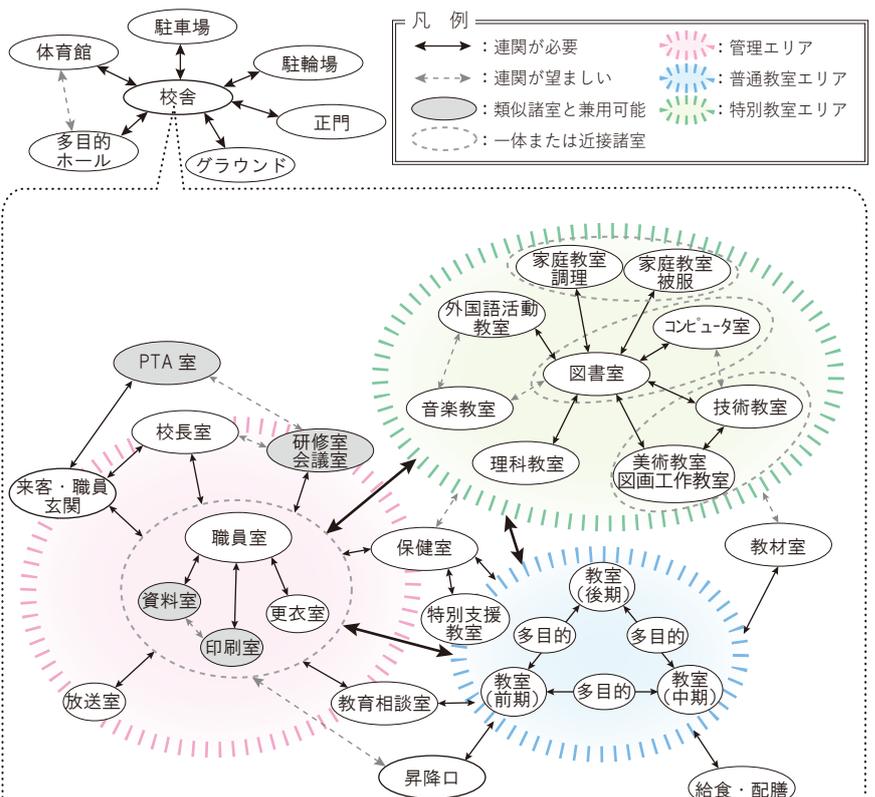
特別教室エリアは、小学部と中学部(※)の専用・共用諸室を明確にし、共用諸室は、児童生徒の体格差に配慮した計画とします。

3. 管理エリア

管理エリアは、学校運営の円滑化や防犯に配慮した計画とします。

③ 諸室の計画

右図、記載の諸室を設け、必要十分な施設を合理的に整備することを基本とします。



(※) 小学部：学校教育法（第49条の4）における義務教育学校の小学校段階に相当する6年の前期課程
 中学部：学校教育法（第49条の4）における義務教育学校の中学校段階に相当する3年の後期課程

※ あくまでも“連関”を示すものであり、具体的な“配置”を示すものではありません。

（４）その他

防災／防犯計画

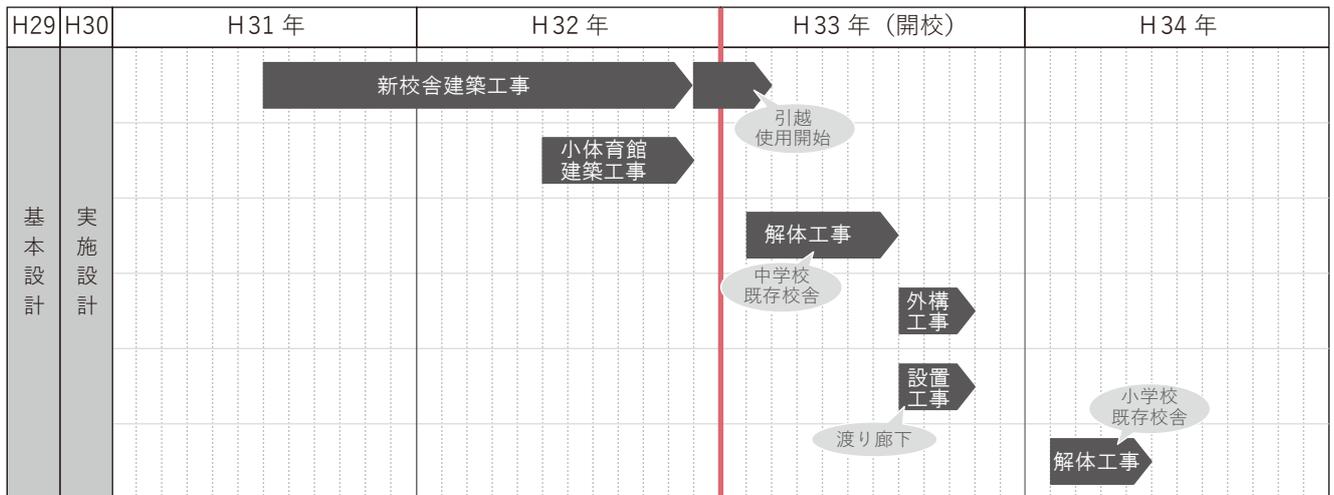
- ・地震等の自然災害発生時や非常時における安全性の高い施設とします。
- ・防災機能として必要な設備（非常用電源、通信機器等）、備品を整備します。
- ・不審者対策や不法侵入防止について、施設の保安管理に留意した計画とします。

4. 工事費概算

建築関連総事業費 2,134,200（千円）

※ 概算工事費の為、今後、変動する可能性があります。

5. スケジュール



6. 今後の検討課題

本基本構想では、小美玉市小中一貫教育基本方針等を踏まえた上で、地域特性を考慮した玉里地区小中一貫校（仮称）における施設整備の方向性について検討を重ねてきました。

以下に、現段階で明らかとなっている今後、検討すべき課題について整理します。

1. 長期的な視点に立った施設整備

コンパクトで機能的な施設及び長期的な維持管理を見通した計画

2. 施設形態別の特性や学習・生活環境

暫定配置案を基に、敷地の有効活用、効率的な学校運営を踏まえた施設整備計画

3. 周辺環境や校内における日照

暫定配置案に対する懸念事項（主要道路等への日照影響や教室の採光について）を緩和する計画

4. 周辺環境に適する景観

公共建築に相応しい景観を確保するための計画

5. 地域特性を活かした教育環境

玉里地区の豊かな自然環境を身近な教材として、教育活動に有効活用するための計画